

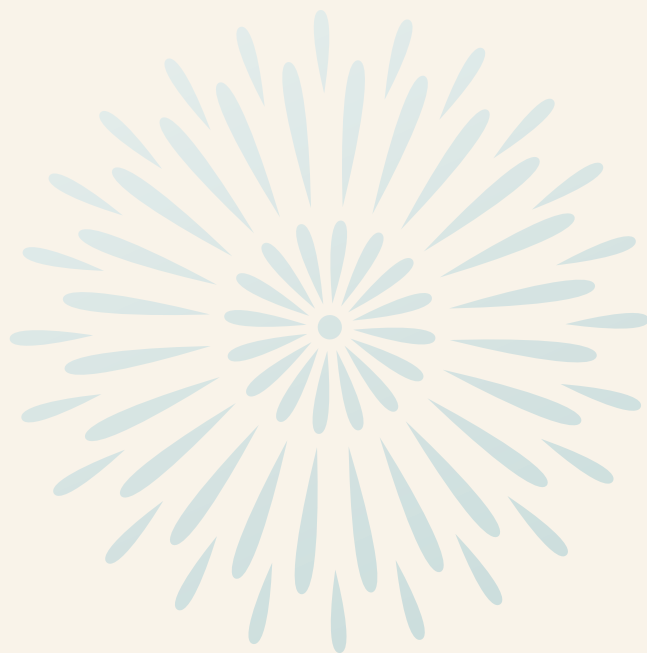
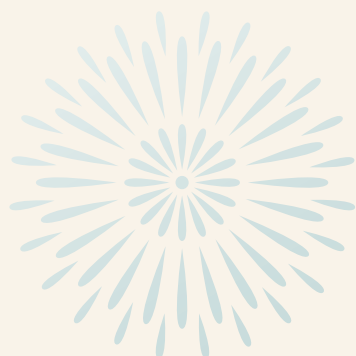


case.14

福岡県うきは市

RESASを使った分析例

1	人口減少の要因分析	P228
2	製造業の取引先分析	P231
3	支援する産業の特定	P236
4	観光産業の現状分析	P241



● うきは市の概要

2005年に2町が合併して誕生した人口31,003人の市(2015年10月時点)。福岡県の南東部に位置し、果樹、米・麦などの農業や製材などの林業が主要産業。また、国民保養温泉地に指定された温泉や自然、歴史資産に恵まれており、観光客も多い。

うきは市は、2005年に浮羽郡吉井町と浮羽郡浮羽町の合併により県下26番目の市として誕生。市の北部は筑後川流域を中心に平野が広がっており、市の南部から東部にかけては耳納山地に連なる山々を有している。主要産業は、多様な自然環境を背景にした農林業となっており、農業においては、果樹、米・麦、花き、野菜などの栽培が盛んで、林業においては、県内有数の製材拠点(市の面積の50%を森林が占めている。)として、栄えてきた。

また、筑後川温泉、棚田百選「つづら棚田」、吉井の白壁土蔵の町並みなど、温泉や自然、歴史資産に恵まれ、2014年の観光入込数は約170万人となっている。

■主要データ

面積※1	117.46km ²	世帯数※2	10,907世帯
人口※2	31,003人	事業所数※4	1,317
人口密度※3	263.95人/km ²	従業者数※5	10,554人

出典/※1 平成27年全国都道府県市区町村別面積調 ※2 うきは市ホームページ(平成27年10月末)

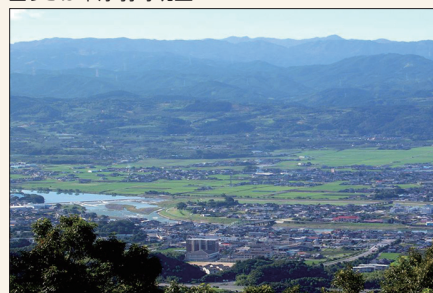
※3 上記記載の「人口÷面積」にて算出 ※4 平成26年経済センサス-基礎調査(事業内容等不詳を含まず)

※5 平成26年経済センサス-基礎調査(男女別の不詳を含む)

■国内における位置



■うきは市浮羽町眺望



● RESAS活用の背景／活用状況

うきはブランド推進課を中心に、うきは市の総合戦略である「うきは市ルネッサンス戦略」の策定において、RESASの分析結果を積極的に採用している。

うきは市は、2012年7月14日に発生した九州北部豪雨による大きな災害を受けたこともあり、「地方人口ビジョン」と「地方版総合戦略」の策定においても、「復興」を1つの大きなテーマとして考えていた。具体的には、施策や事業の実施を通じて、地域の「創造的な再生(ルネッサンス)」を目指しており、地方版総合戦略「うきは市ルネッサンス戦略」内では、

- ①「コミュニティの創造的再生」:「自治協議会」を中心に、行政区間や世代間を越えたコミュニティを強化
- ②「産業の創造的再生」:多様な地域資源を、現在さらには将来の価値観に基づき再評価し、活用することによって新たな産業を創出
- ③「地域の創造的再生」:市制10周年を迎え、「うきは」としての情報発信力を高め、対外的にアピールを3本柱に掲げている。

戦略策定に当たっては、庁内に設置した、「うきは市ルネッサンス戦略検討本部¹」を中心にRESASを積極的に活用、分析結果も随所を使用している。また、産学官金労言の関係者で組織された協議会や「うきは市民大学」の講座の中でも採り上げ・検討されるなど、市を挙げて作成を行っているのも特徴である。

1 全体的な方向性を検討するための「本部会」と、その下部組織として、具体的な戦略を検討する3つの「検討部会」を設置。部署横断的に多くの職員が参加している。

● RESASの分析によって得られた内容

RESASの活用により、人口流出の原因、うきは市の産業特性とポテンシャル、現状の観光戦略の問題点を具体的に把握することができた。その結果、より特化した施策・支援の方向性を検討できた。

「うきは市ルネッサンス戦略」を推進するに当たり、RESASによって人口・産業・観光それぞれの分析を行うことで、課題の背景や今起きていること、また具体的な施策・行動をイメージすることができた。

まず、「人口」面においては、人口マップの活用により、将来にわたる人口減少の様子を改めて把握することができた。また、From-to分析の活用により、年代ごとの人口流出先を把握することができ、人口流出の原因の推測及びその対応策（住居と仕事のマッチングや、広域での定住に向けた取組等）の検討を行うことができた。

次に、「産業」面においては、自治体比較マップの活用により、産業支援施策の策定・実施に当たり、焦点を当てるべき分野・業種を把握することができた。具体的には、産業ごとの企業数や経営者平均年齢を把握し、うきは市及び近隣自治体における産業の集積状況を認識した。今後については、「うきはの“しごと”拡大プロジェクト」等で行っている創業支援や若手経営者支援を行うに当たり、産業特性を踏まえた支援メニューを策定していく予定である。

また、産業マップの活用により、地域中核企業の取引先を分析することができ、優先的に誘致すべき企業を具体的に特定できた。更に、誘致候補企業の取引先を調べることで、操業後の地域内連携の可能性についても検討することができた。

最後に、「観光」面においては、観光マップを活用し、流動人口を調べることで、街中に魅力的な昼食を提供する店が少なく、ビジネスチャンスを見逃している現状を認識できた。また、観光客を誘致する場合に、どの地域に対して観光PRを行うべきかが明確になり、これまで観光PRを行ってきた地域を見直すことの必要性にも気付くことができた。



RESASの活用風景

■副市長を含めてRESASの活用検討会を開催



■画面を確認し今後の施策を検討する様子



■RESASの活用事例を共有する様子



人口減少の要因分析

●活用の背景

うきは市では、1955年をピークに人口の減少傾向が続いており、今後も人口減少が続くこと、特に、社会減少が大きくなることが予測されていた。また、RESASの将来人口推計によると、うきは市においては、自然増減よりも社会増減の方が大きな影響を及ぼすとのことであった。

上記を踏まえ、うきは市では、RESASを活用して人口の社会減少の原因を分析することとした。

●分析内容

第14-1-1図、第14-1-2図は、うきは市の人口推移と人口増減を表したものである。これを見ると、うきは市の総人口は2010年には31,621人となっているが、2040年には23,225人まで減少することが分かる。また、階層別で人口増減の推移を見ると、特に生産年齢人口での減少幅が大きいことが分かる。

第14-1-3図は、うきは市からの転出超過数の内訳を表したものである。これを見ると、福岡市と久留米市に対して、転出超過が多いことが分かる(福岡市は70人(区別の転出超過数の合計)、久留米市は54人となっている)。

第14-1-4図は、20歳代、30歳代の転出超過数の内訳を表したものである。これを見ると、20歳代では、福岡市41人、久留米市11人、30歳代では、福岡市14人、久留米市15人となっており、20歳代と30歳代の転出超過数が多いということが分かる。その要因としては、20歳代は、大学進学や就職で福岡市に出て行くことが多いと考えられ、30歳代は、仕事を理由に隣接している久留米市に転出していることが多いと考えられる。

●得られた結論・今後の展開

うきは市は、「久留米広域定住自立圏²」に参加しており、そこでは、高度医療機能をはじめとした圏域の都市機能や地域資源を活かして、医療、子育て、産業振興、地域公共交通、ICT、人材育成等の幅広い分野において、広域的な取組を行い、圏内への定住を進めているところである。

しかし、担当者によると「RESASによる人口の社会移動の分析結果が示すように、福岡市などへの人口流出に、未だ歯止めがかかっていない状況であり、何かしら対応が必要である。」とのことである。

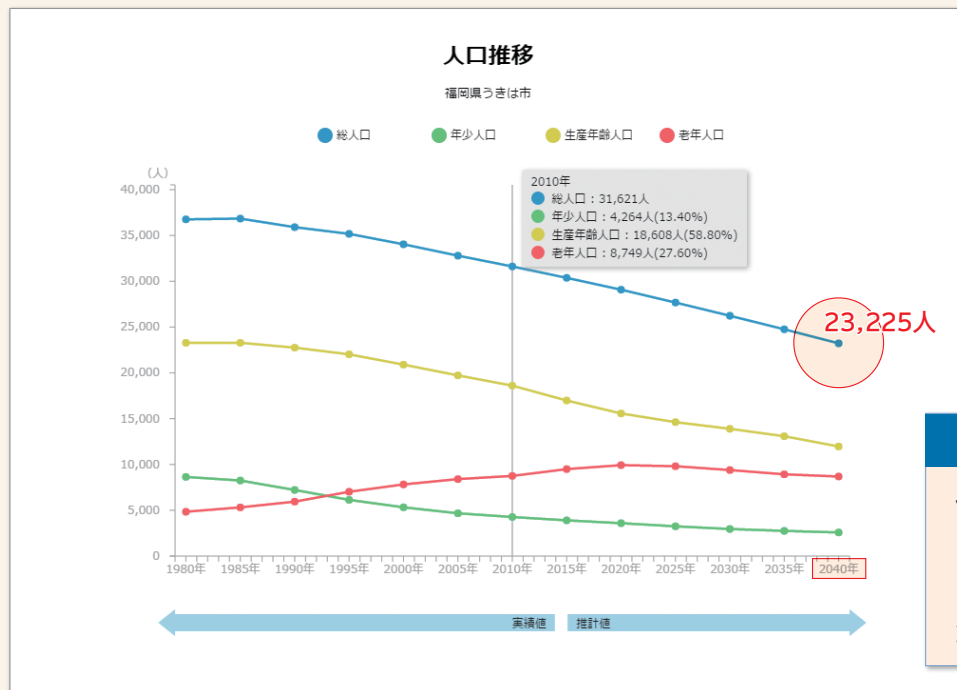
今後については、この結果を参考にしながら、総合戦略内にも記載のある「ジョブマッチング空き家対策プロジェクト³」等により、住居と仕事のマッチングを図り、Uターン者、移住者の増大を図っていく予定としている。また、これまでの久留米広域定住自立圏の取組を“連携中枢都市圏構想⁴”へ展開し、圏域の持つ課題(人口流出、経済成長、都市機能強化、生活関連機能サービスの向上等)に対し、圏域自治体が更なる連携を図り、対応していくことも検討している。

2 平成22年3月13日、久留米市と圏域の3市2町(小郡市、大川市、うきは市、大刀洗町、大木町)は、合同調印式を開催し、魅力と活力ある「久留米広域定住自立圏」を形成するための協定を締結している。(圏域人口:459,623人 圏域面積:467.83km²)

3 うきは市内において、住居と仕事のマッチングを図ることにより、Uターン者、移住者の増大を図るプロジェクト。具体的な施策として「市内求人データベースの構築」、ハローワーク経験者等の優れた人材を雇用する「人材・物件マッチング」等がある。

4 人口減少・少子高齢社会の進行への対応を目的とし、連携中枢都市となる圏域の中心市と近隣の市町村が、連携協約を締結することにより、連携中枢都市圏を形成し、圏域の活性化を図ろうとする構想。

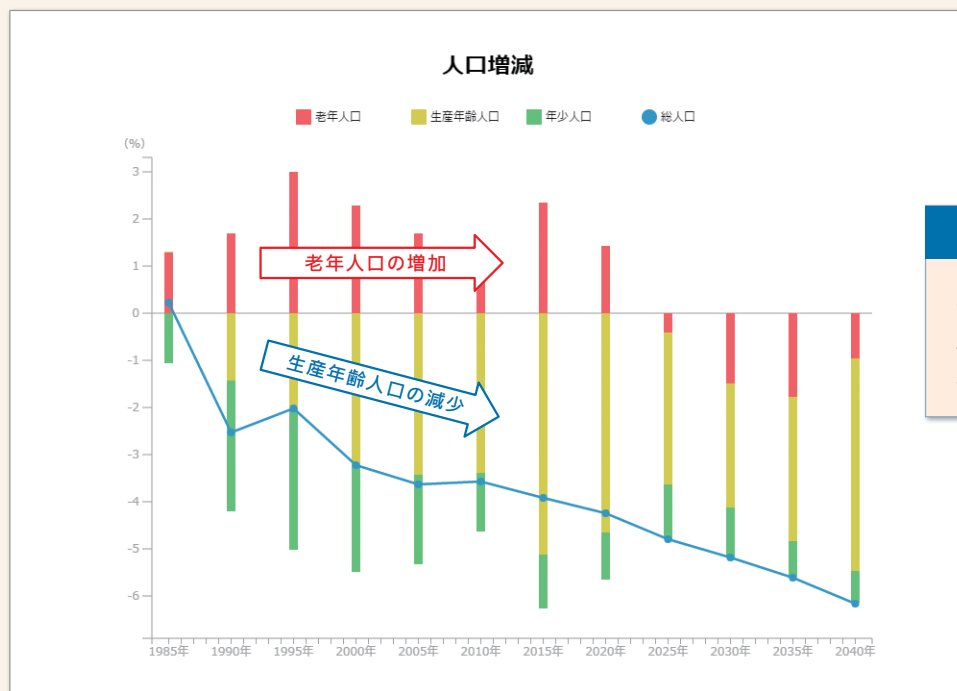
■(第14-1-1図)人口マップ 人口構成 人口推移
[福岡県うきは市]



Point!

うきは市の人口(推計)は、
2010年:31,621人から、
2040年:23,225人まで
減少する。

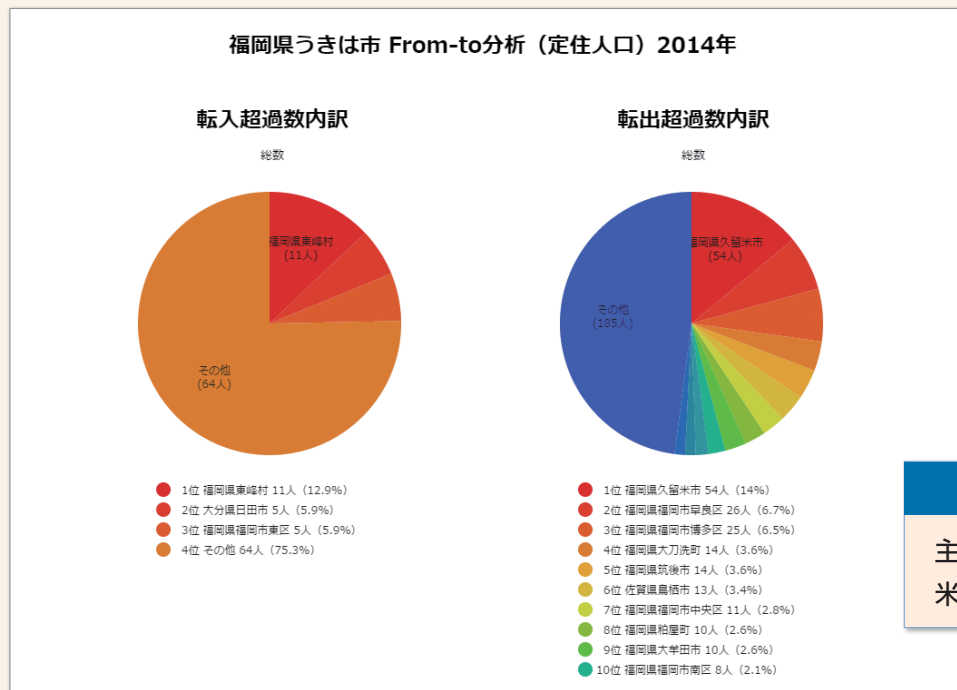
■(第14-1-2図)人口マップ 人口増減
[福岡県うきは市]



Point!

生産年齢人口が減少、老年
人口が増加し、高齢化率
を急激に高めている。

■(第14-1-3図)人口マップ 人口の社会増減 From-to分析(定住人口)
[福岡県うきは市 総数]

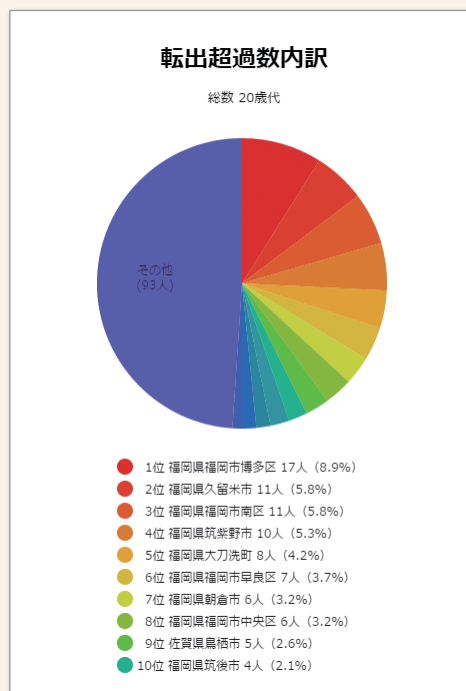


Point!

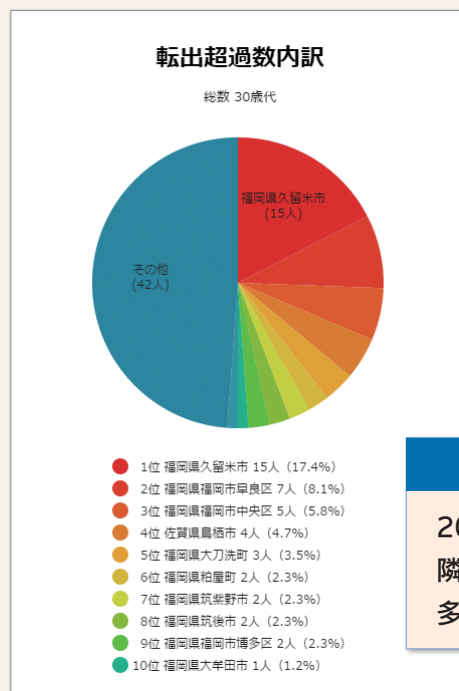
主に福岡市と、隣接する久留米市へ人口流出している。

■(第14-1-4図)人口マップ 人口の社会増減 From-to分析(定住人口)

[福岡県うきは市 20歳代]



[福岡県うきは市 30歳代]



Point!

20歳代は福岡市、30歳代は隣接の久留米市への流出が多い。

製造業の取引先分析

●活用の背景

経済センサスで、うきは市の産業別（大分類）事業所構成を見ると、製造業の占める割合が全国や福岡県に比べると高いのが特徴である。また、大規模な工場立地によって、従業者数（事業所ベース）の約4分の1を製造業が占めており、雇用においても、製造業が重要な役割を果たしている。近年、工場数及び従業者数が減少しているが、製造品出荷額については増加傾向にある。

以上の背景を踏まえ、うきは市の製造業の活性化についての検討を行うためにRESASを活用して分析を行った。

●分析内容

第14-2-1図は、製造業において「雇用貢献度を重視」した場合の、うきは市の中核企業の一覧である。これを見ると、中核企業としてA社が1位に出てきていることが分かる。

また、第14-2-2図は、企業A社における従業員数の推移を調べたものである。これを見ると、A社の従業員数は、市内の製造業従業者の1割を占めていることが分かる。

第14-2-3図は、「コネクタ度を重視」した場合の、うきは市の中核企業の一覧である。これを見ると、雇用貢献度を重視したときに1位だったA社は、順位を若干落としたものの、地域外との取引（販売）を盛んに行っていることが分かる。

第14-2-4図は、「ハブ度を重視」した場合の、うきは市の中核企業の一覧である。これを見ると、雇用貢献度を重視したときに1位だったA社は6位で、域内仕入においても貢献度が上位であることが分かる。また、域内取引先企業は2社であり、そのうち1社はA社のグループ企業、もう1社は機器販売会社であることが判明した。

第14-2-5図は、A社と取引先企業との企業間取引データ（衛星図）である。これを見ると、A社の売上高が増えたと、域内企業の2社にも好影響を与えていることが分かる。

第14-2-6図は、うきは市に新たに進出予定の県外企業の取引状況を分析した結果である。これを見ると、うきは市内に工場がある企業が、域外販売の取引先企業に含まれていることが分かった。このため、この企業がうきは市で操業を始めることにより、域内連携が促進される可能性があることが判明した。

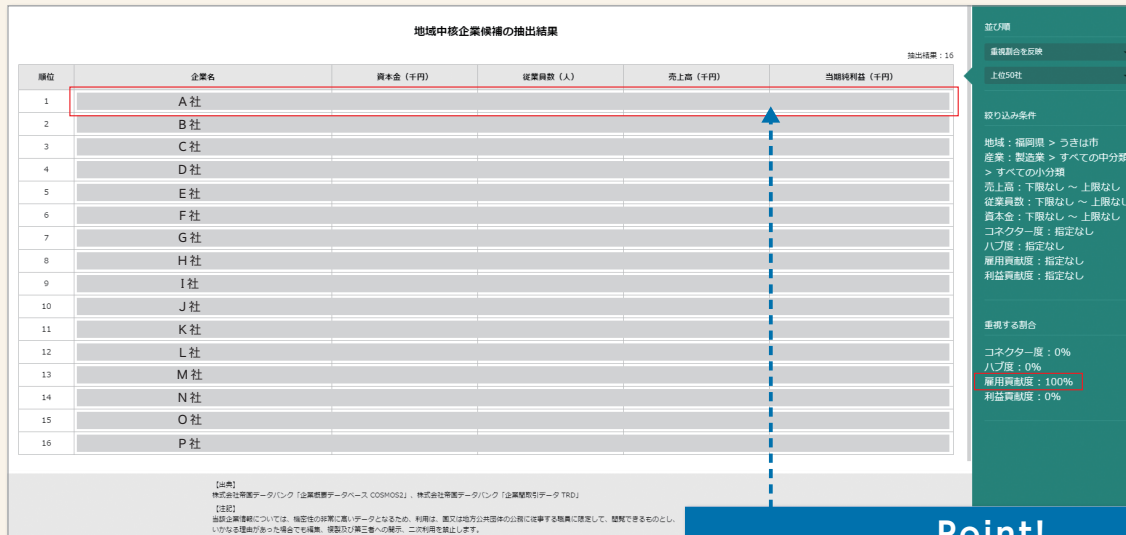
●得られた結論・今後の展開

担当者によると、「RESASの企業別花火図を見ることで、当市が優先的に誘致すべき企業や産業分野を明確化できた。また、今後新たに市内に進出する予定の県外企業を分析することによって、操業後の域内連携の可能性を検討するきっかけとなった。」とのことであり、データを分析することで、特化した施策の展開が図られている。

今後は、A社の取引先企業（仕入先企業）を、うきは市内に誘致したいと考えている。誘致できれば、A社が更に中核企業として重要度を増し、域内での相乗効果が期待できる。

2 RESASを使った分析例 | 製造業の取引先分析

■(第14-2-1図)産業マップ 企業別火花図 地域中核企業候補の抽出結果 [福岡県うきは市 製造業]



Point!

「雇用貢献度: 100%」とすると、地域中核企業候補第1位がA社となる。

■(第14-2-2図)産業マップ 全産業火花図、企業別火花図

[従業員数(企業単位) 大分類 産業分類カラー 福岡県うきは市 2012年]



[個別企業情報 A社 従業員]



Point!

A社の従業員数は220人であり、製造業従事者数(2,240人)の約1割を占める。

2 RESASを使った分析例 | 製造業の取引先分析

■(第14-2-3図)産業マップ 企業別花火図 地域中核企業候補の抽出結果

[福岡県うきは市 製造業]

順位	企業名	資本金 (千円)	従業員数 (人)	売上高 (千円)	当期純利益 (千円)
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12	A 社				
13					
14					
15					

並び順
重視割合を反映
上位50社

絞り込み条件
地域: 福岡県 > うきは市
産業: 製造業 > すべての中分類 > すべての小分類
売上高: 下限なし ~ 上限なし
従業員数: 下限なし ~ 上限なし
資本金: 下限なし ~ 上限なし
コネクター度: 指定なし
ハブ度: 指定なし
雇用貢献度: 指定なし
利益貢献度: 指定なし

重視する割合
コネクター度: 100%
ハブ度: 0%
雇用貢献度: 0%
利益貢献度: 0%

【出典】
株式会社県営データバンク「企業振興データベース COSMOS2」、株式会社県営データバンク「企業振興データベース TRD」
【注記】
当該企業情報については、掲載後の非公開に要するデータとなるため、利用は、国又は地方公共団体の公務に従事する職員に限定して、閲覧できるものとし、
いかなる理由があっても複製、譲渡及び第三者への開示、二次利用を禁止します。

Point!

「コネクター度:100%」とすると、
A社の順位は下がるが、域内外で
盛んに販売を行っている。

[個別企業情報 A社 域外販売]

福岡県 > うきは市			
製造業 >			
域外販売 32 社 (前年比: -2)	域内販売 2 社 (前年比: +0)	域外仕入 36 社 (前年比: -7)	域内仕入 2 社 (前年比: +0)
域外販売 取引先企業名			

[個別企業情報 A社 域内販売]

福岡県 > うきは市			
製造業 >			
域外販売 32 社 (前年比: -2)	域内販売 2 社 (前年比: +0)	域外仕入 36 社 (前年比: -7)	域内仕入 2 社 (前年比: +0)
域内販売 取引先企業名			

■(第14-2-4図)産業マップ 企業別花火図 地域中核企業候補の抽出結果

[福岡県うきは市 製造業]

順位	企業名	資本金(千円)	従業員数(人)	売上高(千円)	当期純利益(千円)
1					
2					
3					
4					
5					
6	A 社				
7					
8					
9					
10					
11					

並び順

重視割合を反映

上位50社

絞り込み条件

地域: 福岡県 > うきは市
産業: 製造業 > すべての中分類
> すべての小分類
売上高: 下限なし ~ 上限なし
従業員数: 下限なし ~ 上限なし
資本金: 下限なし ~ 上限なし
コネクター度: 指定なし
ハブ度: 指定なし
雇用貢献度: 指定なし
利益貢献度: 指定なし

重視する割合

コネクター度: 0%
ハブ度: 100%
雇用貢献度: 0%

Point!

「ハブ度:100%」とすると、A社は地域中核企業候補第6位となり、域内仕入においても貢献度が高い。

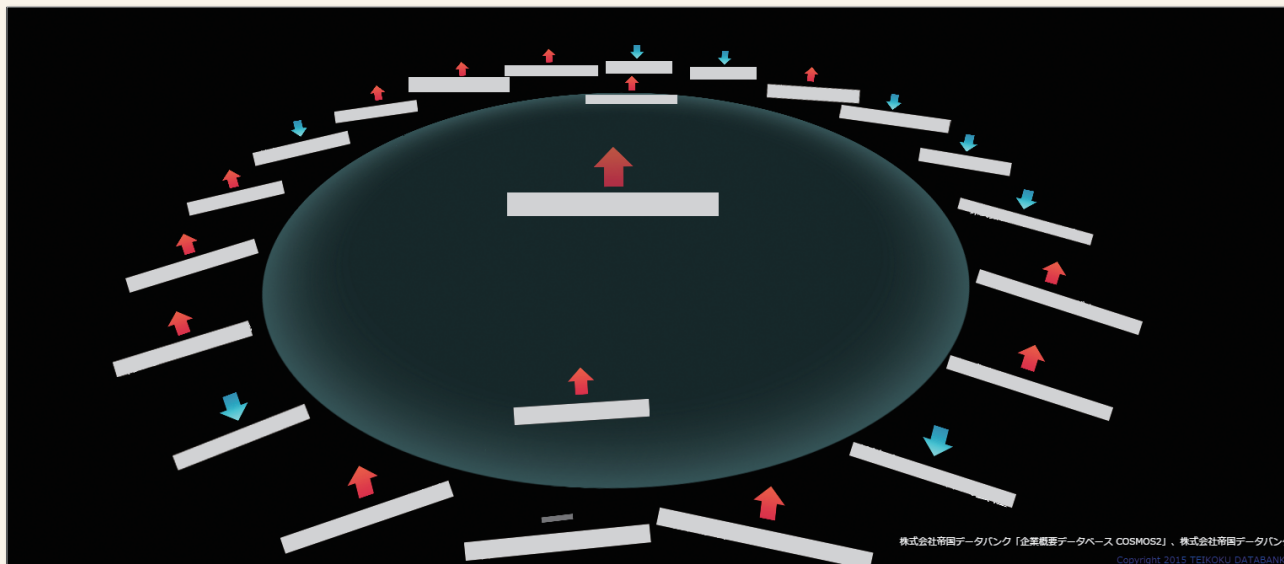
[個別企業情報 A社 域外仕入]

域外販売 32 社 (前年比: -2)	域内販売 2 社 (前年比: +0)	域外仕入 36 社 (前年比: -7)	域内仕入 2 社 (前年比: +0)
域外仕入 取引先企業名			

[個別企業情報 A社 域内仕入]

域外販売 32 社 (前年比: -2)	域内販売 2 社 (前年比: +0)	域外仕入 36 社 (前年比: -7)	域内仕入 2 社 (前年比: +0)
域内仕入 取引先企業名			

■(第14-2-5図)産業マップ 企業別花火図
[個別企業情報 A社 販売先企業 売上高の状況を見る]



Point!

A社の取引高増加に伴い、域内2社の売上高も増加する。

■(第14-2-6図)産業マップ 企業別花火図

[個別企業情報 B社 域外仕入]



[個別企業情報 B社 域外販売]



Point!

うきは市に新たに進出予定の県外企業の域外販売先企業に、うきは市内の企業が含まれていた。

支援する産業の特定

●活用の背景

内閣府の「市区町村別経済指標」によると、2000年から2010年における活性化度について、うきは市の指標は▲2.6であり、福岡県内60市町村の中で48番目という低い順位に位置している。

うきは市では、上記の結果を踏まえ、地域内産業の活性化等を検討しているが、国際的な社会環境が変化する中、雇用吸収力が高い製造業など大企業の誘致が現実的に厳しい状況がある。そこで、うきは市では、地域に存在する多様な資源を活かし、新たな産業の創出を図ることで雇用の場を確保することを目的にRESASを活用し、地域の企業の集積状況の把握と、支援する産業の特定を行った。

●分析内容

まずは、うきは市及び近隣地域の企業の集積状況を把握する。第14-3-1図は、うきは市を含めた久留米広域定住自立圏の「全産業の企業数」を表したものである。これを見ると、うきは市の企業数は1,085社で県内28位、他市については、久留米市は10,406社で県内3位、大川市は2,132社で県内13位、小郡市は1,258社で県内24位である。

第14-3-2図は、うきは市を含めた久留米広域定住自立圏の「飲食店の企業数」を表したものである。これを見ると、飲食店数は131社で福岡県内21位となっており、他の産業の立地状況と比べ比較的数字は多いといえる。他市については、久留米市は1,376社で県内3位、大川市は151社で県内17位、小郡市は125社で県内24位である。

また、第14-3-3図は、うきは市を含めた久留米広域定住自立圏の「卸売業、小売業の企業数」を表したものである。これを見ると、うきは市は295社で県内25位となっており、こちらも比較的数字は多いといえる。他市については、久留米市は2,491社で県内3位、大川市は539社で県内12位、小郡市は301社で県内24位である。

更に、第14-3-4図は、うきは市を含めた久留米広域定住自立圏の「無店舗小売業の企業数」を表したものである。これを見ると、うきは市は7社で福岡県内29位となっており、その数はわずかである。他市については、久留米市は81社で県内3位、大川市は22社で県内9位、小郡市は15社で県内15位である、同じ久留米定住自立圏の中で、久留米市、大川市は昨年と比べそれぞれ26社から81社、4社から22社と急増していることが分かる。

次に、第14-3-5図は、うきは市を含めた久留米広域定住自立圏の創業比率を見たものである。これを見ると、うきは市の創業比率は、久留米広域定住自立圏内の自治体の中でも最も低く、かつ、県内でも57位と極めて低いことが分かる。また、第14-3-6図は、飯塚市の創業比率を表したものである。飯塚市では、2004年から2006年にかけて創業比率が大幅に上昇していることが分かる。

最後に、第14-3-7図は、うきは市を含めた久留米広域定住自立圏の飲食料品小売業の経営者平均年齢を表したものである。これを見ると、うきは市の平均年齢は、久留米広域定住自立圏内の自治体と比較しても下がってきており、若い経営者が増加していることが分かる。

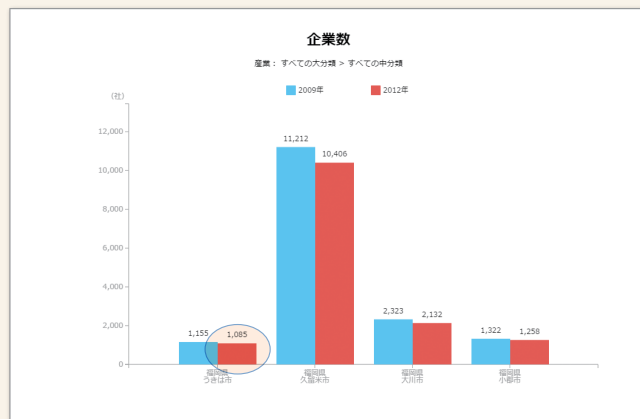
●得られた結論・今後の展開

担当者によると、「地元のフルーツを活用したスイーツ店やカフェなどの小規模事業者が増えてきていると感じていたことが、RESASで定量的に見ることができた。今後は、経営者の若返りや地域の活性化に対して意欲がある若者を呼び込むこと、また産業を絞って若者の創業を支援することが重要になる。」とのことであり、「飲食店」のみならず「卸売業、小売業」、更には近隣地域には多く見られるが、うきは市内にはほとんどない「無店舗小売業」の創業に特化した施策を講じることも、方策の1つとして検討する必要があるとしている。

今後については、近隣地域で増加している無店舗小売業の種類やその雇用状況と売上規模等を調べるなど、より詳細な分析をすることに加えて、第4-3-6図にも見られるように、学術機関との連携により創業比率の大幅な伸長を見せた飯塚市の施策等を参考に、うきは市の企業支援施策策定についての検討を行う予定である。そして、地域特性を活かした新たな商品開発や新サービスの開発等、地域経済の発展に取り組む個人や団体等の支援を目的とした「うきはの“しごと”拡大プロジェクト」の事業などに、その結果を活かしていく予定である。

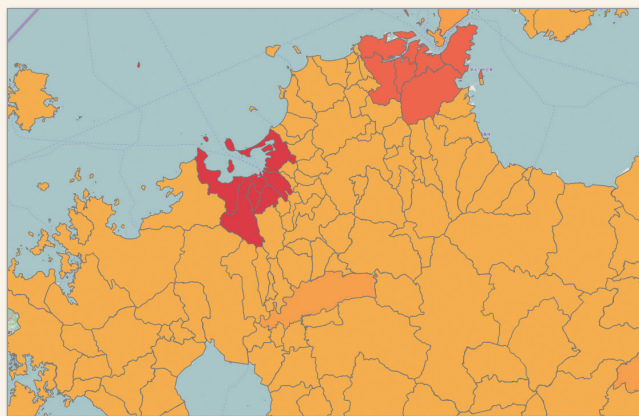
■(第14-3-1図)自治体比較マップ 企業数 ※指定の市はすべて福岡県

[うきは市、久留米市、大川市、小郡市]



[企業数順位 うきは市]

企業数順位 福岡県うきは市 2012年		
福岡県内	全国	
28位	755位	
全国上位10市区町村	全国下位10市区町村	指定地域の上位下位5市区町村
1位 大田原大田市	1,729位 長野高井町	749位 福岡県 久留米市
2位 豊後高田市	1,725位 福岡県 久留米市	749位 山形県 山形市
3位 福岡県 久留米市	1,727位 北海道 釧路市	752位 鹿児島県 鹿児島市
4位 京都市 京都市	1,728位 東京都 豊島区	752位 福岡県 久留米市
5位 北海道 札幌市	1,729位 東京都 豊島区	752位 福岡県 久留米市
6位 兵庫県 神戸市	1,730位 東京都 豊島区	755位 福岡県 久留米市
7位 福岡県 久留米市	1,731位 東京都 豊島区	756位 熊本県 熊本市
8位 広島県 広島市	1,732位 東京都 豊島区	756位 福岡県 久留米市
9位 福岡県 久留米市	1,732位 東京都 豊島区	756位 福岡県 久留米市
10位 福岡県 久留米市	1,734位 東京都 豊島区	759位 福岡県 久留米市
		760位 福岡県 久留米市

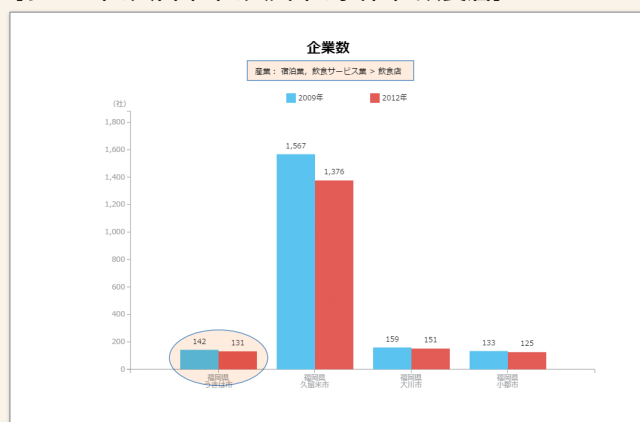


Point!

久留米広域定住自立圏の4市(久留米市・大川市・小郡市・うきは市)の企業数を比較すると、うきは市の企業数が最も少ない。

■(第14-3-2図)自治体比較マップ 企業数 ※指定の市はすべて福岡県

[うきは市、久留米市、大川市、小郡市 飲食店]



[企業数順位 うきは市 飲食店]

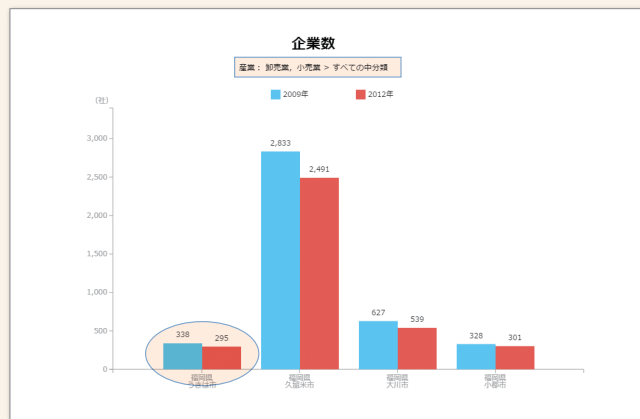
企業数順位 福岡県うきは市 2012年		
福岡県内	全国	
21位	666位	
全国上位10市区町村	全国下位10市区町村	指定地域の上位下位5市区町村
1位 大田原大田市	1,729位 長野高井町	658位 鹿児島県 鹿児島市
2位 豊後高田市	1,725位 福岡県 久留米市	662位 大分県 大分市
3位 福岡県 久留米市	1,727位 北海道 釧路市	663位 兵庫県 神戸市
4位 京都市 京都市	1,728位 東京都 豊島区	663位 三島市 三島市
5位 北海道 札幌市	1,729位 東京都 豊島区	663位 福岡県 久留米市
6位 兵庫県 神戸市	1,730位 東京都 豊島区	663位 福岡県 久留米市
7位 福岡県 久留米市	1,731位 東京都 豊島区	666位 福岡県 久留米市
8位 広島県 広島市	1,732位 東京都 豊島区	666位 福岡県 久留米市
9位 福岡県 久留米市	1,732位 東京都 豊島区	666位 福岡県 久留米市
10位 福岡県 久留米市	1,734位 東京都 豊島区	666位 福岡県 久留米市
		666位 福岡県 久留米市

Point!

「飲食店」の企業数は131社、福岡県内で21位と、他産業と比べて比較的立地数が多い。

■(第14-3-3図)自治体比較マップ 企業数 ※指定の市はすべて福岡県

[うきは市、久留米市、大川市、小郡市 卸売業、小売業]



[企業数順位 うきは市 卸売業、小売業]

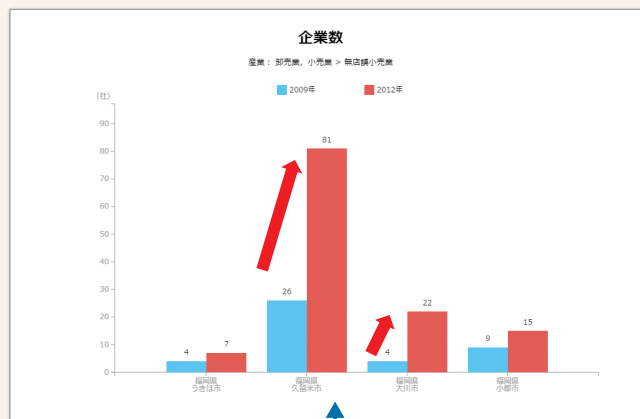
企業数順位		
福岡県 うきは市		
2012年		
福岡県内	全国	
25位	674位	
全国上位10市区町村		
1位 大阪市	1,721位 北海道 札幌市	670位 北海道 札幌市
2位 東京都 中央区	1,721位 北海道 旭川市	672位 東京都 中央区
3位 東京都 港区	1,721位 東京都 港区	672位 東京都 港区
4位 東京都 港区	1,728位 北海道 札幌市	674位 東京都 港区
5位 東京都 港区	1,728位 北海道 札幌市	674位 東京都 港区
6位 東京都 港区	1,728位 北海道 札幌市	674位 東京都 港区
7位 東京都 港区	1,728位 北海道 札幌市	674位 東京都 港区
8位 東京都 港区	1,728位 北海道 札幌市	674位 東京都 港区
9位 東京都 港区	1,733位 東京都 港区	679位 東京都 港区
10位 東京都 港区	1,734位 東京都 港区	679位 東京都 港区

Point!

「卸売業、小売業」の企業数は295社、福岡県内で25位と、他産業と比べて比較的立地数が多い。

■(第14-3-4図)自治体比較マップ 企業数 ※指定の市はすべて福岡県

[うきは市、久留米市、大川市、小郡市 無店舗小売業]



[企業数順位 うきは市 無店舗小売業]

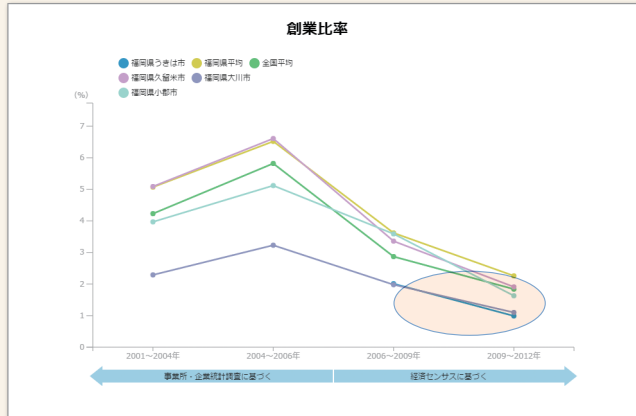
企業数順位		
福岡県 うきは市		
2012年		
福岡県内	全国	
29位	673位	
全国上位10市区町村		
1位 大阪市	1,536位 北海道 札幌市	679位 福岡県 久留米市
2位 東京都 中央区	1,536位 北海道 札幌市	679位 福岡県 久留米市
3位 東京都 中央区	1,536位 北海道 札幌市	679位 福岡県 久留米市
4位 東京都 中央区	1,536位 北海道 札幌市	679位 福岡県 久留米市
5位 東京都 中央区	1,536位 北海道 札幌市	679位 福岡県 久留米市
6位 東京都 中央区	1,536位 北海道 札幌市	679位 福岡県 久留米市
7位 東京都 中央区	1,536位 北海道 札幌市	679位 福岡県 久留米市
8位 東京都 中央区	1,536位 北海道 札幌市	679位 福岡県 久留米市
9位 東京都 中央区	1,536位 北海道 札幌市	679位 福岡県 久留米市
10位 東京都 中央区	1,536位 北海道 札幌市	679位 福岡県 久留米市

Point!

「卸売業、小売業」のうち、「無店舗小売業」の企業数を見ると、同じ久留米広域定住自立圏の中でも、久留米市が26社から81社、大川市は4社から22社と急増している。

■(第14-3-5図)自治体比較マップ 創業比率 ※指定の市はすべて福岡県

[うきは市、久留米市、大川市、小郡市]



[創業比率順位 うきは市]

創業比率順位
福岡県うきは市
2012年

順位	市町村	創業比率
1位	福岡県うきは市	57位
2位	福岡県久留米市	1,213位
3位	福岡県大川市	
4位	福岡県小郡市	

全国上位10市区町村 全国下位10市区町村 指定地域の上位5市区町村

順位	市町村	創業比率
1位	福岡県うきは市	57位
2位	福岡県久留米市	1,213位
3位	福岡県大川市	
4位	福岡県小郡市	
5位	福岡県平均	
6位	全国平均	
7位	福岡県久留米市	1,213位
8位	福岡県大川市	
9位	福岡県小郡市	
10位	福岡県平均	

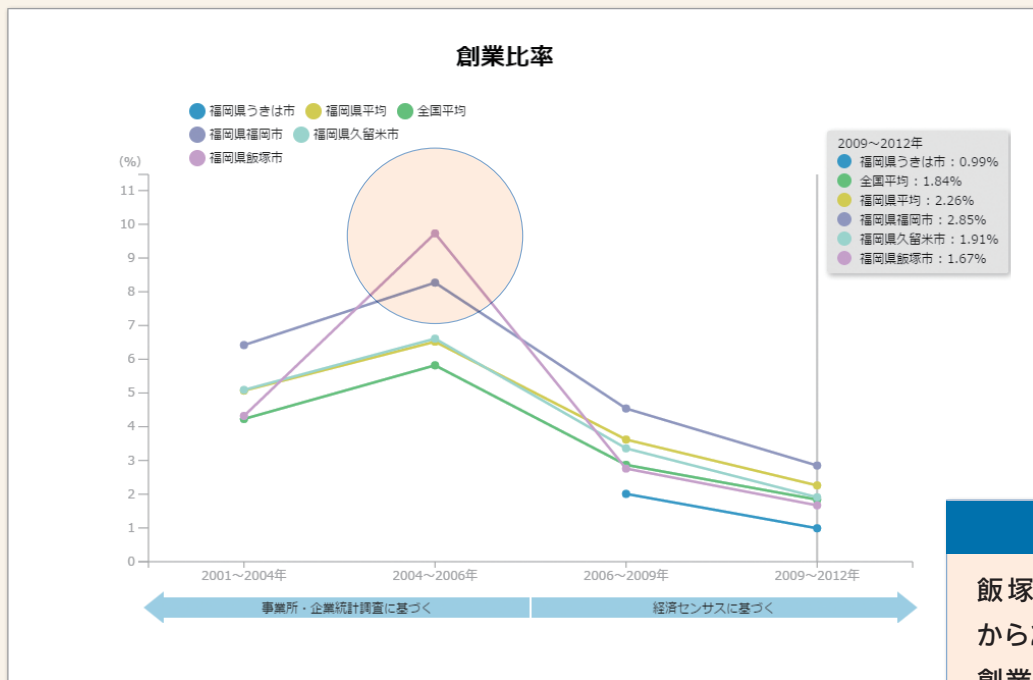
Point!

創業比率は、久留米広域定住自立圏の自治体の中で最も低く、福岡県内でも57位と極めて低い。

■(第14-3-6図)自治体比較マップ 創業比率

[うきは市、福岡市、久留米市、飯塚市]

※指定の市はすべて福岡県



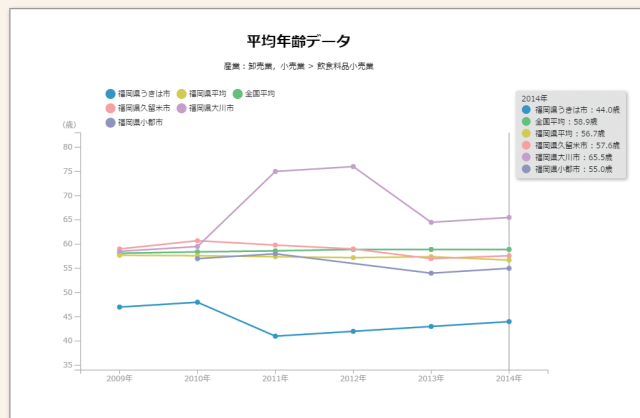
Point!

飯塚市では、2004年から2006年にかけて、創業比率が大幅に上昇した。

■(第14-3-7図)自治体比較マップ 経営者平均年齢 ※指定の市はすべて福岡県

[平均年齢データ

うきは市、久留米市、大川市、小郡市 飲食料品小売業]



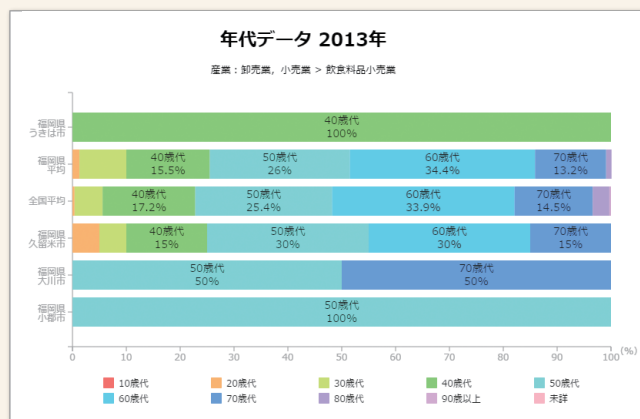
[経営者平均年齢(高齢順)順位

うきは市 飲食料品小売業]



[年代データ

うきは市、久留米市、大川市、小郡市 飲食料品小売業]



Point!

うきは市における飲食料品小売業の経営者平均年齢は下がってきており、若い経営者が増加している。



うきは市の風景

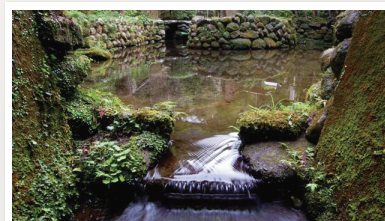
■「つづら棚田」日本棚田百選



■筑後吉井おひなさまめぐり



■清水湧水



観光産業の現状分析

●活用の背景

うきは市には、国民保養温泉地に指定された筑後川温泉、吉井温泉や、吉井の白壁土蔵の町並みなど特色を持った観光資源があるが、「福岡県観光入込客推計調査」によると、うきは市の観光入込客数は、年間約185万人で安定していたが、2014年は約170万人に減少した。そのうち宿泊客は、入込総数の2%程度に止まり、うきは市の観光は、日帰り観光が中心になっている。

このような背景のもと、うきは市内における経済循環を高める上で重要となる宿泊業、飲食店の活性化を図るために、RESASを活用して現状の分析を行った。

●分析内容

第14-4-1図は、うきは市の人の動きを表したものである。これを見ると、筑後川温泉、吉井温泉、吉井白壁に、多くの人々が来ていることが分かる。

第14-4-2図は、うきは市の月別・時間帯別流動人口を表したものである。これを見ると、月別の筑後川温泉、吉井温泉、吉井白壁の流動人口は、いずれも2月に落ち込みを見せている一方で、3月には上昇していることから、例年2月～4月にかけて行われる「筑後吉井おひなさまめぐり」を通した観光PRが一定の効果を上げていることが推測される。また、うきは市の観光コンテンツの目玉である「フルーツ狩り」の最盛期となる9月が、両温泉街における流動人口のピークとなっていることも分かる。

また、時間帯別の筑後川温泉、吉井温泉、吉井白壁の流動人口は、吉井白壁では12時台の落ち込みが激しいことから、吉井市街の飲食店が観光客に利用されていないと考えられる。

第14-4-3図は、休日にうきは市に滞在した人がどこから来たかを表したものである。これを見ると、滞在者の多くはうきは市の周辺地域から訪れており、県内では朝倉市・久留米市が多く、県外では大分県日田市が最も多く、次いで、佐賀県鳥栖市、佐賀県佐賀市、大分県大分市となっている。

第14-4-4図は、うきは市及び隣接市の流動人口を表したものである。これを見ると、鉄道や高速道路等の公共交通網沿いに流動人口数が多いことが分かる。

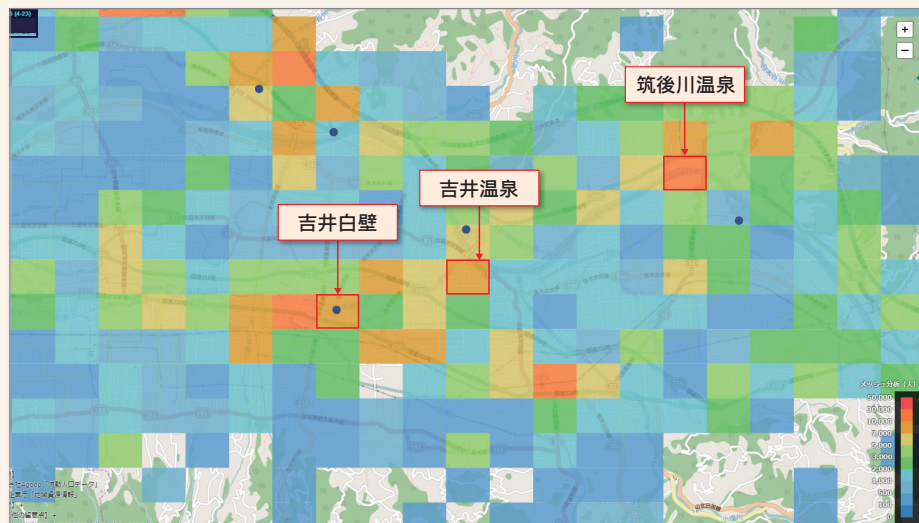
●得られた結論・今後の展開

担当者によると「近年、福岡都市圏への観光PRを積極的に行ってきたが、RESASの活用によって、福岡市からの来訪者数が想像より少ないことが分かった。」とのことである。

今後については、福岡都市圏への観光PRの強化を図るとともに、集客力の高い催事・イベントの時期も踏まえて、鉄道や高速道路等の交通アクセスの強みを活かし、流動人口の多い大分県日田市、大分県大分市、佐賀県鳥栖市、佐賀県佐賀市等に対して、広域観光ルート開発等、近隣地域と連携した観光PRに力を入れることを検討していく予定である。

吉岡副市長は、「観光マップの機能は、リアルタイムに人の動きを把握することができる点において優れている。今後は、施策に関わる事業レベルの検討に当たり、商工担当の職員を中心にRESAS活用頻度を高めていきたい。」としている。

■(第14-4-1図)観光マップ メッシュ分析(流動人口)
[2014年(休日) 5月 福岡県うきは市]

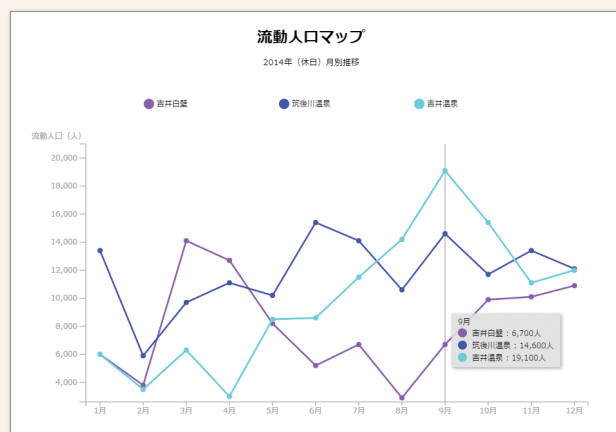


Point!

5月の休日は、筑後川温泉、吉井温泉、吉井白壁の流動人口が多い。

■(第14-4-2図)観光マップ メッシュ分析(流動人口)

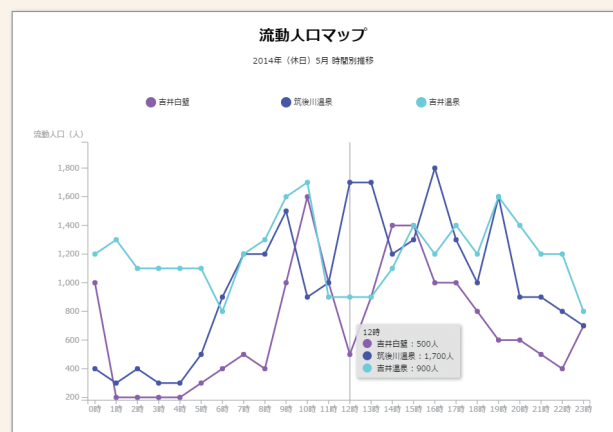
[2014年(休日) 月別推移 吉井白壁、筑後川温泉、吉井温泉]



Point!

いずれの観光地も、2月に流動人口が減少するが、「筑後吉井おひなさまめぐり」がある3月には上昇している。また、「フルーツ狩り」最盛期の9月が、流動人口のピークとなる。

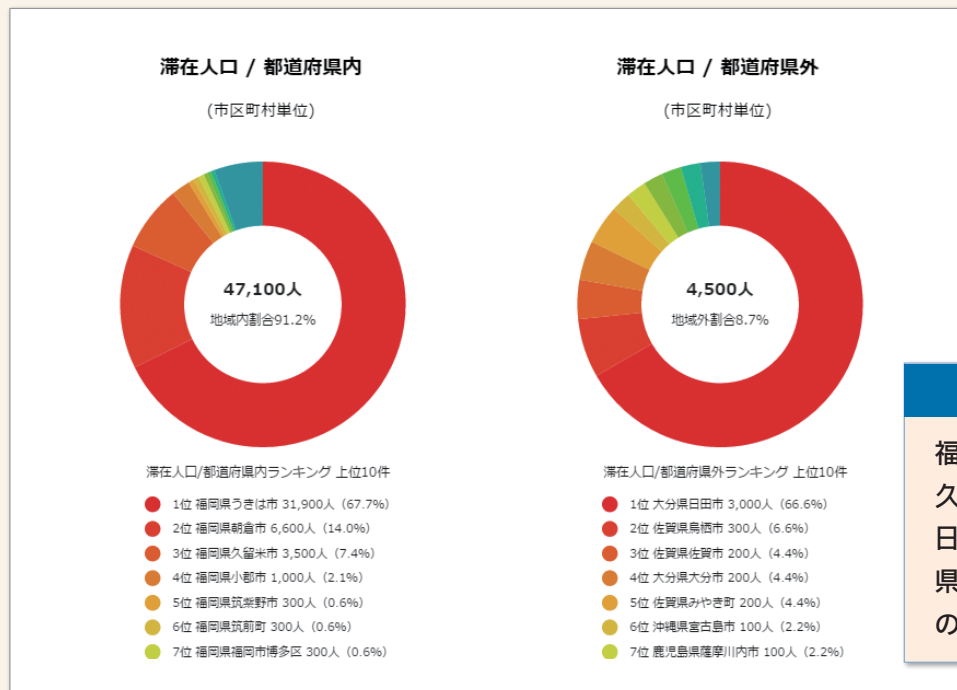
[2014年(休日) 5月 時間別推移 吉井白壁、筑後川温泉、吉井温泉]



Point!

吉井白壁の、12時台の流動人口が大きく減少する。

■(第14-4-3図)観光マップ From-to分析(滞在人口)
[2014年(休日) 福岡県うきは市]



Point!

福岡県内は隣接の朝倉市・久留米市から、県外は大分県日田市、佐賀県鳥栖市、佐賀県佐賀市、大分県大分市からの来訪者が多い。

■(第14-4-4図)観光マップ メッシュ分析(流動人口)
[2014年(休日) 5月 福岡県うきは市及び隣接市]



Point!

鉄道や高速道路等の交通アクセスの良い県内・県外の市からの、流動人口が多い。

